

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第5回議事録

平成20年8月29日

1. 日 時：平成19年8月28日(木)14:00～17:00
2. 場 所：応用地質学会事務局
3. 出席者：平野、伊東、遠藤、松下、桑原、小島、山本、江口（敬称略）
計8名
4. 資 料：
 - ・議事次第
 - ・資料5-1 委員名簿（080828修正）
 - ・資料5-2 第4回議事録（案）
 - ・資料5-3 執筆分担案（080728修正）
 - ・資料5-4 各担当執筆骨子案
 - 資料5-4-1 4章 岩盤と工学的性質（目次案）
 - 資料5-4-2 6.2.2 橋梁（調整前粗原稿）
 - 資料5-4-3 6.2.3 原子力基礎（調整前粗原稿）
 - 資料5-4-4 6.3.2 地下空洞（骨子案）
 - 資料5-4-5 6.3.1 トンネル（骨子案）
 - ・資料5-5-1 地すべり土塊の分類と透水性の設定について（話題提供）
 - ・資料5-5-2 岩盤路床の凍上性判定法（具体例）
 - ・資料5-5-3 北海道開発局道路設計要領抜粋（話題提供）
5. 議 事：
 - 5-1 前回議事録の確認
誤字があったため、誤字を修正することとした。
内容については了承された。
 - 5-2 委員の代理について
品川委員より小委員会退会の申し出があり、了承することとした。ただし、執筆活動については引き続き行っていただくことから、技術書の執筆者に加えることとした。
 - 5-3 執筆分担案について
執筆分担案に本委員会の審議による目次案を加えるとともに、進捗をわかりやすく示した表を作成することとした。
 - 5-4 各担当執筆案について

各担当より執筆案についての提案があり、以下の議論があった。

- ① 4 章 岩盤と工学的性質（目次案）（説明は伊東委員）

岩盤の風化の記載については、硬岩・軟岩の細項目に入れるよりも、ロックシリーズとして考えて、4.2.4 岩石の風化、4.3.4 岩盤の風化として項目立てて記載した方がよいのではないか。
- ② 6.2.2 橋梁（調整前粗原稿）（説明は遠藤委員）

一般橋梁と長大橋梁の定義を最初に書いたほうがよいのではないか。
一般橋梁の設計の前には地盤モデルを作成するための岩盤分類が行われているので、この部分についても記載する。
- ③ 6.2.3 原子力基礎（調整前粗原稿）（説明は松下委員）

原子力基礎においては、管理時点において岩盤分類を活用する機会がないため、調査から岩盤検査までにおける岩盤分類の適用について示すこととする。
基本的に公表されていることを書くこととし、公表されていない部分については全体像がわかるようなものの考え方を書くこととした。
調査・設計のイメージがわかりやすいように、原子力における調査レベル（質・量）の記載を行うこととした。
- ④ 6.3.1 トンネル（骨子案）（説明は小島委員）

現時点ではシンポジウム資料の内容に加筆修正を行うのでページ数が増える予定であるため、内容の絞り込みを考えている。
- ⑤ 6.3.2 地下空洞（骨子案）（説明は江口が代読）

細項目目次案と骨子案の対応がわかりにくいため細項目に対する骨子案を確認する。
- ⑥ 全体
 - ・第 6 章の各構造物についてはそれぞれ独立しており、例えば 6.2 章のダム、橋梁、原子力基礎においてひとまとめの考察等はないことから、以下のように章番号を変更する。

(変更前)	→	(変更後)
6.2.1 ダム		6.2 ダム
6.2.2 橋梁		6.3 橋梁
6.2.3 原子力基礎		6.4 原子力基礎
6.3.1 トンネル		6.5 トンネル
6.3.2 地下空洞		6.6 地下空洞
6.4 掘削のり面		6.7 掘削のり面
 - ・簡易、平易な文章の度合いがわかりにくいため参考となる図書、表現を次回までに各委員に示す。
 - ・細目次案はほぼ出そろった状況（はじめになどのほとんど文章だけの章や新たな岩盤分類、付録は除く）なので、次回の委員会では全章において、できるだけある程度文章としてまとまったものを提出することとした。

5-5 話題提供

伊東委員と幹事より話題提供があり、それについて以下の議論があった。

- ① 岩盤路床の凍上性判定法（説明は伊東委員）
 - ・路床として適用する岩盤の試験項目については、現在の判定法では飽和密度、吸水率、

P 波速度、一軸圧縮強度としているが、飽和密度と吸水率、P 波速度と一軸圧縮強度にはそれぞれ相関があり、今後試験項目が吸水率と一軸圧縮強度とする可能性もある。

- ・今回の試験は釧路の岩盤で実施しているが、北海道の中でも適用に違いを持たせている。
- ・本報告は内容的に技術書に掲載可能であると考えられる。

②地すべり土塊の分類と透水性の設定について（説明は江口）

- ・無水で掘り上がったボーリングについては、コア区分においては基準に照らし合わせて区分しているが、透水試験との比較では用いていない。
- ・説明の順番が前後しているところがあり、資料のまとめ方に工夫が必要。
- ・本報告は内容的に技術書に掲載可能であると考えられる。

5-6 次回の開催について

次回の開催は平成 20 年 10 月中旬～下旬（研究発表会開催日を含む）に行うこととし、後日日程調整を行うこととした。

今回は、平野委員長より話題提供を行うこととし、また、新たな分野の執筆担当者にも話題提供を実施してもらうよう要請することとした。

以 上